

学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	新潟市立鳥屋野中学校
校長氏名	小川 裕一

1 学校紹介

全校生徒数700人を超える県内屈指の大規模校でありながら、自由な校風と生徒一人一人の自主性や主体性を重んじる風土が定着している。失敗を恐れることなく、いろいろなことに挑戦し続ける中で、明るい未来を想像する生徒を育成している。



2 実践テーマ

<テーマ>

生徒の個性の伸長と働き方改革で「輝く学校」を目指す ～グループ学級担任システムの構築～

テーマ設定の理由

グループ学級担任制を導入することにより、以下の効果が期待できると考える。

- (1) 複数担任の見取りにより、多面的な生徒理解と多角的な支援・指導ができる。
- (2) 多様化する生徒・保護者に対し、互いに補完し合い、教師の精神的負担を軽減できる。
- (3) グループ内で悩みを抱えている職員の早期発見とラインケアの充実を図ることができる。

3 実践内容

- (1) 全学年8クラスを3つのグループに分ける
 - ・例：Aグループ（1～3組） Bグループ（4～6組） Cグループ（7・8組）]
 - ・各グループには学級数+1の教職員を配置する。学年主任はグループに属さない。
 - ・各グループにはキャップを置き、グループ内の統括とグループ同士の連携を推進する。
 - ・学年主任は各グループのキャップと連携を図り、学年全体を統括する。
- (2) 各グループ内では1週間ごとに担任する学級をローテーションする。
 - ・学級担任としての以下の業務に取り組む。
 - *朝学活・給食指導・終学活・清掃指導・道徳・特別活動・総合・生活ノート点検
 - *保護者対応 ※ 保護者会や生徒相談は、希望などを取り入れて実施
- (3) 情報共有のためのデジタル・ネットワークの整備
 - ・生徒のよさや課題は、グループキャップに情報共有し、指導・支援の方向性を相談する。
 - ・不登校生徒やいじめへの対応は、状況把握、指導・支援を分担し、連携して支援する。

4 成果と課題

グループ学級担任制は、令和元年度は1年生、令和2年度は1，2年生、令和3年度からは全学年で実施している。

- 令和3、4年度に行った生徒アンケートで、次の項目で「あてはまる」と回答した生徒の割合
「やっていることを先生や友達に認められてうれしいと感じることがよくあります」 R3…54.9% R4…59.7%
「自分にはよいところがあります。」 R3…38.5% R4…44.8% ※年々上昇している
複数の目で生徒一人一人を丁寧にみとり、事実をとらえて認め励ますことで、生徒の自己肯定感の高まりや生徒自身の成長の自覚を促しているといえる。
- 個人懇談や進路相談の担当職員を希望制にしているため、担当する生徒数に偏りが生じる。
- 令和3、4年度に行った職員アンケートでは「生徒の自信ややる気を高めることに有効だ」「職員の協働性を高めている」「仕事量の負担軽減になっている」「精神的な負担軽減になっている」など、働き方改革やメンタルヘルスケアの視点からも有効であると8割以上の職員が成果を回答した。
- △今後は、保護者に対してもアンケートを行い、グループ学級担任制の成果と課題を分析する。